



朝夕の冷え込みがぐっと厳しくなりましたが、皆さまご体調はいかがでしょうか。急患センターではインフルエンザのお子さんが増え、外来や病棟でも、大学病院らしく多様な疾患のお子さんが受診し、徐々に忙しさが増してきています。そんな中でも、我々は、日々元気に診療にあたっています。

今回的小児科通信でも、小児科病棟の行事、医局員の先生方の学会参加報告などを掲載しています。ぜひ、ご覧になってください。

～10月・11月の医局行事報告～

10月 神経グループの小児科セミナー

「結節性硬化症の基礎と最新知見」のテーマでセミナーが行われました。

結節性硬化症は、mTOR 経路の異常を背景とする遺伝性多臓器疾患であり、てんかんや発達障害に加えて、脳・腎・心・皮膚などに多様な病変を生じます。小児期に発症するが多く、早期診断と適切な治療介入が生命予後・発達予後を大きく左右します。

本セミナーでは、第1部で病態や初期症状からの診断ポイントを、第2部で mTOR 阻害薬を中心とした治療戦略と長期フォローアップの実際が紹介されました。

11月 内分泌・代謝グループのクリニカル・カンファレンス

「救急で出会う高アンモニア血症～先天代謝異常を見逃さないために～」のテーマでクリニカル・カンファレンスが行われました。

高アンモニア血症は小児救急で遭遇する頻度は稀ですが、診断・治療の遅れは不可逆的な脳障害や致死的転帰につながるため、常に念頭に置くべき病態です。新生児・乳児期には尿素サイクル異常をはじめとした先天代謝異常が初発の契機となることがあり、原因不明の意識障害やけいれんを見た際には速やかなアンモニア測定が求められます。

本クリニカル・カンファレンスでは、救急現場でまず行うべき初期対応、先天代謝異常を疑うための臨床的視点、そして専門医への連携や治療選択肢へ至る流れについて勉強することができました。

10月30日-11月1日

第58回日本小児内分泌学会学術集会（グランドニッコー東京ベイ舞浜）

大濱尚先生、桑村真美先生、齋藤玲子先生が発表されました。

発表のご褒美に、東京ディズニーシーを楽しまれたようです。

学会後のディズニーシー
の夜景！！最高ですね！



11月8-9日 第57回日本小児感染症学会（グランドニッコー東京ベイ舞浜）

永沢孟先生、川村卓先生、多久佳祐先生、石井雅宏先生が発表されました。

また、第20回研究奨励賞として小川将人先生が、「川崎病患者における尿中 PGEMUM を用いた診断および免疫グロブリン治療に対する反応予測の有用性についての検証」というテーマで受賞されました。
(こちらは男性の参加が多かったため TDR に行く話は出ませんでした)



11月13-15日 東アジア血友病フォーラム 2025 (Nara Kasugano International Forum IRAKA)

白山理恵先生と血友病でご高名な Chia-Yau Chang 先生
(Taipei Medical University Hospital)



11月19-21日 第67回日本小児血液・がん学会学術集会（福岡国際会議場）

宮地秀途先生、宮本智成先生、水城和義先生、浅井完先生、齋藤祐介先生、深野教授が発表されました。深野教授は、賞も受賞されました。懇親会や飲み会も開催され、小児血液・がん診療を行っている先生方とたくさん交流をしてきました！病棟を守ってくれていた先生方、ありがとうございます。



11月22-23日 第57回日本小児呼吸器学会（福岡国際会議場）

山口定信先生、川村卓先生が発表されました。
特に現在話題となっている百日咳のセッションは第一線で活躍されている先生方が集まり、活気のある議論となりました。



～小児科病棟でのイベント～

10月 ギラヴァンツ北九州の選手訪問

今年もギラヴァンツ北九州の3選手が、小児科病棟を訪れ、入院中の子どもたちとボールを蹴ったり、リフティングを披露したりしてくれました。サイン入りユニホームのプレゼントもいただき、子どもたちや付き添いのお母様方とともに盛り上りました。
選手の皆様、ありがとうございます！



～11月 12月の医局内イベント～

学生の中には、小児科通信を読んで学会参加してくれた方もいらっしゃいます！興味のある方は、ご連絡をお待ちしております★

- 11月 学位取得報告会（桑村先生）
- 12月 令和7年のまとめ
- 12月 感染・免疫グループのクリニカル・カンファレンス

★クリニカルカンファレンスとセミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、守田(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp)までご連絡ください。

～12月開催予定の学会～

学会によっては学生参加枠もありますので、興味のある学生さんはお声かけ下さい★

12月 13日 第531回日本小児科学会福岡地方会例会（九州大学医学部百年講堂）

○佐藤峰輝先生 ○藤本菜生先生

～論文掲載情報～

1. Yamaguchi S, Kawamura M, Shirayama R, Hoshina T Development of Successive Thrombophlebitis and Takayasu Arteritis Associated With Crohn Disease in a Pediatric Patient: A Case Report. J Rheumatol.

～医局員からのメッセージ～

「学会参加のすゝめ」

医師7年目、小児科5年目の大濱 尚です。今回、久しぶりに小児科通信を書くことになって、とてもテーマに悩みましたが、最近の楽しかったことについて書こうと思います。意外かもしれません、それは“学会”です。

毎年秋は学会シーズンで、全国各地でそれぞれのグループの学会が開催されます。私も毎年、何らかの学会で演者として参加しますが、今年は初めて小児内分泌学会に参加しました。会場はディズニーのオフィシャルホテルで、ディズニーシーの新エリア、ファンタジースプリングスが窓から垣間見え、高層階からは遠くに富士山が見える絶景でした。

恥ずかしながらこれまで学会は、発表準備で燃え尽きてしまい、学会本番は自分の発表までは発表のことで頭がいっぱい、発表が終わったら打ち上げのことで頭がいっぱい、オンデマンドもあるからと、現地参加が疎かになっていました。とても勿体ないことをしていたなと思います。やはり現地参加だと質問ができたり、セミナーに参加したり、有名な先生の生身のお話を聞くと刺激となり、日常診療にも大変やる気が出ました。

もちろん学会の参加だけではなく、前後はディズニーで全力で遊び、発表後の打ち上げも楽しみました。学生さんや、現在研修医をされている先生も、ぜひ興味のある分野の学会に積極的に参加して、遊びも勉強も満喫してほしいなと思います。

最後に現在所属する内分泌グループの紹介です。内分泌の疾患は、糖尿病から甲状腺、副腎、骨系統疾患、代謝疾患など幅広く、私も絶賛勉強中ですが、専門としてずっと深めていくことができ、大変魅力のある分野だと感じます。

患者さんの一生に関わる疾患も多く、やりがいがあります。ホルモン補充をしないと命をつなげない子が、補充することで通常通りの生活を送れるようになります。生まれた時から関わっている子が、成長していくさまを見守ることができるのは、嬉しいものです。少しでも興味があれば、一緒に楽しく勉強しましょう！



小児科通信に関してご意見や感想があれば守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～